

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月1日

【四半期会計期間】 第12期第2四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

【会社名】 株式会社paperboy&co.

【英訳名】 paperboy&co., Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤 健太郎

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区桜丘町26番1号

【電話番号】 03-5456-2622(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼コーポレート部長 久保田 文之

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区桜丘町26番1号

【電話番号】 03-5456-2622(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼コーポレート部長 久保田 文之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第11期 第2四半期 連結累計期間		第12期 第2四半期 連結累計期間		第11期	
		自 至	平成24年1月1日 平成24年6月30日	自 至	平成25年1月1日 平成25年6月30日	自 至	平成24年1月1日 平成24年12月31日
売上高	(千円)		1,887,450		2,053,136		3,809,427
経常利益	(千円)		361,732		367,165		699,900
四半期(当期)純利益	(千円)		207,275		226,343		396,822
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		207,331		227,787		398,376
純資産額	(千円)		1,424,773		1,670,756		1,615,818
総資産額	(千円)		3,156,526		3,527,805		3,375,662
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		156.20		170.50		299.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		155.63		169.03		297.68
自己資本比率	(%)		45.1		47.4		47.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		323,866		347,371		590,197
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		135,510		820,495		292,328
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		172,212		172,426		172,537
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		1,802,427		1,266,066		1,911,616

回次		第11期 第2四半期 連結会計期間		第12期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成24年4月1日 平成24年6月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年6月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		77.32		89.45

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の
有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項に記載した将来事象に関する予測・見通し等は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グ
ループが判断したものであり、それらには不確実性が内在し将来の結果とは大きく異なる可能性がありま
す。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、昨年末に発足した新政権による経済対策や金融政策の効果
によるデフレ脱却と景気回復への期待感から円安・株価が進展、消費者心理や企業の業況判断にも改善の
兆しが見られるようになりました。

こうした中で、当社グループが事業展開を行うインターネット市場においては、スマートフォンやタブ
レット端末の普及やLTEなどの高速通信環境の整備などによりインターネット利用シーンはますます広
がっております。

そのような環境の下、当社グループは、「インターネットで可能性をつなげる、ひろげる」をミッションと
し、個人の表現活動を中心としたインターネットでの活動を幅広く支える企業として、各サービスにおいて
スマートフォンやタブレット端末への対応、機能の拡充などを行い、さらに、新規顧客の獲得のための各種
キャンペーンを積極的に行ったことにより、契約件数が堅調に伸び、業績予想に対し売上高・利益共に順調
に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高2,053,136千円（前年同期比8.8%増）、営
業利益366,487千円（前年同期比5.1%増）、経常利益367,165千円（前年同期比1.5%増）、四半期純利益
226,343千円（前年同期比9.2%増）となりました。

(セグメント別の状況)

ホスティング事業

ホスティング事業については、レンタルサーバー各サービスにおいて他社からの乗り換えキャンペ
ーンを展開したことや、スマートフォン向け機能拡充などを行ったことにより、当第2四半期連結累計期間
のレンタルサーバー契約件数は386,000件（前年同期比28,000件増）となりました。また、レンタルサー
バー契約件数の順調な増加や一括取得できるドメインの種類を追加したことに伴い、ドメインサービス
も堅調に推移し、登録ドメイン数は、842,000件（前年同期比45,000件増）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるホスティング事業の売上高は1,442,623千円（前年同期
比9.3%増）、セグメント利益は456,166千円（前年同期比5.7%増）となりました。

EC支援事業

EC支援事業については、iPhoneで商品の受注・在庫管理ができるアプリのリリースやデジタルコンテンツ販売機能、スライドショー設定機能などショップオーナーを支援するさまざまな機能追加を行いました。また、電話サポートやコンサルティングによる包括的な運営支援を積極的に行うなどの施策により、当第2四半期連結累計期間の「カラーミーショップ」契約件数は41,200件（前年同期比3,200件増）、「カラメル」の出店店舗数は21,000件（前年同期比1,400件増）となりました。また、引き続き昨年提供開始した新規サービスに対し継続的に開発・投資を進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるEC支援事業の売上高は472,508千円（前年同期比11.1%増）、セグメント利益は204,180千円（前年同期比8.4%減）となりました。

コミュニティ事業

コミュニティ事業では、会員数203万名にのぼるブログサービス「JUGEM」において、スマートフォン向けの機能拡充やデザインテンプレートの追加などスマートフォン向けを中心とした機能の拡充を図ったことにより、当第2四半期連結累計期間のブログ有料プランである「JUGEM PLUS」契約件数は21,230件（前年同期比1,400件増）となりました。一方、広告収入モデルである無料ブログサービス「JUGEM」では、広告単価の下落などの影響もあり売上高が前年同期に比べ減少いたしました。また、2012年度の電子書籍コンテンツ市場は2011年度の2.8倍の729億円となり、2016年度には、1,850億円に達すると見込まれております（株式会社ICT総研調べ）。そういった市場の拡大に伴い、当社グループで運営する電子書籍関連サービス「ブックログ」及び「パパー」では、純広告や電子書籍販売が順調に推移し、ブックレビューコミュニティサイト「ブックログ」は会員数675,000名（前年同期比143,000名増）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるコミュニティ事業の売上高は138,003千円（前年同期比3.1%減）、セグメント利益は19,169千円（前年同期セグメント損失3,326千円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は3,527,805千円（前連結会計年度末比152,143千円増）となりました。これは、主に売上の増加により「売掛金」が増加したこと、投資有価証券の取得により「投資有価証券」が増加したことによるものであります。

負債は1,857,048千円（同97,204千円増）となりました。これは、主に会員数等の増加に伴い「前受金」や「その他（預り金）」等が増加したことによるものであります。

純資産は1,670,756千円（同54,938千円増）となりました。これは、主に剰余金の配当により179,142千円減少したものの四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、1,266,066千円となり、前連結会計年度末における資金1,911,616千円に対して、645,549千円減少しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は、347,371千円（前年同期は323,866千円の収入）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益の計上によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、820,495千円（前年同期は135,510千円の支出）となりました。これは、主に固定資産の取得や投資有価証券の取得によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、172,426千円（前年同期は172,212千円の支出）となりました。これ

は、主に配当金の支払によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000
計	1,500,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月1日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,329,750	1,329,750	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,329,750	1,329,750		

(注) 提出日現在の発行数には、四半期報告書提出日(平成25年8月1日)の新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日 (注)	2,550	1,329,750	3,146	124,014	3,146	114,014

(注) 新株予約権行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
GMOインターネット株式会社	東京都渋谷区桜丘町26 - 1	830,000	62.42
GMOアドパートナーズ株式会社	東京都渋谷区桜丘町26 - 1	50,000	3.76
ピーピーエイチ フィデリティ ピュリタン フィデリティ シ リーズ インタリシツク オボ チユニテイズ フアンド 常任代理人 株式会社三菱東京U F J銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7 - 1	20,000	1.50
片岡 勝典	大阪府三島郡島本町	13,500	1.01
水谷 量材	兵庫県淡路市	11,000	0.82
中谷 宅雄	大阪府松原市	10,400	0.78
佐藤 健太郎	東京都世田谷区	10,000	0.75
重田 康光	東京都港区	10,000	0.75
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6 - 1	10,000	0.75
松田 博	滋賀県草津市	9,600	0.72
計		974,500	73.28

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,328,500	13,285	
単元未満株式	普通株式 1,050		
発行済株式総数	1,329,750		
総株主の議決権		13,285	

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社paperboy&co.	東京都渋谷区桜丘町26番1号	200		200	0.02
計		200		200	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はございません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年1月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,911,616	1,266,066
売掛金	519,866	567,683
その他	180,061	179,940
貸倒引当金	4,478	5,657
流動資産合計	2,607,066	2,008,033
固定資産		
有形固定資産	157,617	155,902
無形固定資産	189,562	209,456
投資その他の資産		
投資有価証券	275,846	976,305
その他	145,569	178,107
投資その他の資産合計	421,416	1,154,412
固定資産合計	768,595	1,519,772
資産合計	3,375,662	3,527,805
負債の部		
流動負債		
営業未払金	53,228	66,966
未払法人税等	165,604	110,089
前受金	1,060,885	1,151,365
その他	467,450	515,859
流動負債合計	1,747,169	1,844,282
固定負債		
資産除去債務	12,674	12,766
固定負債合計	12,674	12,766
負債合計	1,759,844	1,857,048
純資産の部		
株主資本		
資本金	120,867	124,014
資本剰余金	110,867	114,014
利益剰余金	1,383,114	1,430,315
自己株式	586	586
株主資本合計	1,614,264	1,667,758
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,554	2,998
その他の包括利益累計額合計	1,554	2,998
純資産合計	1,615,818	1,670,756
負債純資産合計	3,375,662	3,527,805

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,887,450	2,053,136
売上原価	866,235	953,971
売上総利益	1,021,215	1,099,164
販売費及び一般管理費	672,564	732,676
営業利益	348,650	366,487
営業外収益		
受取利息	2	30
受取配当金	996	2,099
有価証券利息	-	1,772
匿名組合投資利益	14,414	-
助成金収入	-	4,400
その他	588	659
営業外収益合計	16,002	8,961
営業外費用		
投資有価証券評価損	1,410	1,785
匿名組合投資損失	-	6,041
その他	1,510	456
営業外費用合計	2,920	8,284
経常利益	361,732	367,165
特別損失		
減損損失	-	8,010
特別損失合計	-	8,010
税金等調整前四半期純利益	361,732	359,154
法人税、住民税及び事業税	154,009	134,964
法人税等調整額	448	2,153
法人税等合計	154,457	132,810
少数株主損益調整前四半期純利益	207,275	226,343
四半期純利益	207,275	226,343

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	207,275	226,343
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	56	1,444
その他の包括利益合計	56	1,444
四半期包括利益	207,331	227,787
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	207,331	227,787
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	361,732	359,154
減価償却費	53,547	61,379
減損損失	-	8,010
投資有価証券評価損益(は益)	1,410	1,785
賞与引当金の増減額(は減少)	11,200	-
役員賞与引当金の増減額(は減少)	9,800	-
匿名組合投資損益(は益)	14,414	6,041
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,045	1,178
受取利息及び受取配当金	998	2,130
有価証券利息	-	1,772
売上債権の増減額(は増加)	58,486	47,816
前渡金の増減額(は増加)	19,405	13,310
その他の流動資産の増減額(は増加)	4,908	13,781
営業未払金の増減額(は減少)	10,710	13,738
前受金の増減額(は減少)	101,090	90,480
その他の流動負債の増減額(は減少)	14,834	17,342
その他	391	975
小計	506,359	505,947
利息及び配当金の受取額	998	3,902
法人税等の支払額	183,491	162,478
営業活動によるキャッシュ・フロー	323,866	347,371
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	30,288	700,000
有形固定資産の取得による支出	50,246	33,319
無形固定資産の取得による支出	55,682	54,274
関係会社株式の取得による支出	5,100	14,900
匿名組合出資金の払込による支出	-	25,000
敷金及び保証金の回収による収入	5,744	6,999
その他	62	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	135,510	820,495
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	6,293
自己株式の取得による支出	68	-
配当金の支払額	172,143	178,719
財務活動によるキャッシュ・フロー	172,212	172,426
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	16,143	645,549
現金及び現金同等物の期首残高	1,786,284	1,911,616
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,802,427	1,266,066

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
給料及び手当	224,685千円	269,999千円
貸倒引当金繰入額	1,045千円	1,178千円
賞与引当金繰入額	11,200千円	-千円
役員賞与引当金繰入額	9,800千円	-千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金	1,802,427千円	1,266,066千円
現金及び現金同等物	1,802,427千円	1,266,066千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月20日 定時株主総会	普通株式	172,510	130	平成23年12月31日	平成24年3月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月20日 定時株主総会	普通株式	179,142	135	平成24年12月31日	平成25年3月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額合計 (注)2
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,319,611	425,460	142,378	1,887,450	-	1,887,450
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,319,611	425,460	142,378	1,887,450	-	1,887,450
セグメント利益	431,439	222,804	3,326	650,916	302,265	348,650

(注) 1 セグメント利益の調整額 302,265千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額合計 (注)2
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,442,623	472,508	138,003	2,053,136	-	2,053,136
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,442,623	472,508	138,003	2,053,136	-	2,053,136
セグメント利益	456,166	204,180	19,169	679,516	313,028	366,487

(注) 1 セグメント利益の調整額 313,028千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	156円20銭	170円50銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	207,275	226,343
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	207,275	226,343
普通株式の期中平均株式数(株)	1,326,995	1,327,532
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	155円63銭	169円03銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	4,836	11,555
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月1日

株式会社paperboy&co.

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松野 雄一郎 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡田 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社paperboy&co.の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社paperboy&co.及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。